

窓

論説委員室から

美しき日本が残る島

「現代日本に残された数少ない希望の一つです」。京都に長く住む米国人で東洋文化研究家のアレックス・カーさん(55)は、長崎県の離島で人口約3千人の小値賀町をそう表現する。

町は、五島列島の北部に位置し、小値賀島など大小17の島々からなる。3年前に初めて島を訪れたカーさんは、江戸末期や明治期から残る数多くの古民家と島民の手厚いもてなしに触れて、ひと目惚れした。

滞日歴約40年。京都で京町家を宿泊施設として再生する事業を進め、すでに8軒を手がけた。著書「美しき日本の残像」や講演を通じ、コンクリートや看板があふれた現代日本の景観を嘆く。

カーさんは2月に小値賀町の「おぢか

観光まちづくり大使」を引き受けた。島内の古民家の再生事業を支援し、島外から多くの人に来てもらうつもりだ。

小値賀に魅せられた人たちはまだいる。米国の非営利国際教育組織が昨夏、国際親善のため、世界48コースに約2万7千人の「学生大使」を派遣した。参加者アンケートで、長崎県の交流プログラムが「世界一」の評価を受けた。

自然体験などを盛り込んだコースを作ったのは長崎県平戸市在住の教育企画プロデューサー、小関哲さん(28)。コースは長崎市や平戸市も含むが、「僕が持っている一番の穴場が小値賀」と、最高評価に小値賀の存在が不可欠という。

「美しき日本」が地域を元気にする起爆剤になるかもしれない。(大矢雅弘)